

武蔵野・生活者 ネットワークレポート No.54

●発行：武蔵野・生活者ネットワーク ●発行責任者：小出律子
●〒180-0006 武蔵野市中町 3-11-13-102 ●TEL&FAX：0422-36-3767
■http://musashino.seikatsusha.net/ ■musashino@seikatsusha.net

武蔵野ネット

で検索

子育て力を豊かにするための支援の実態調査から見えてきたこと

子育て力を豊かにするための支援を調査

武蔵野・生活者ネットワークでは、子どもを取り巻く環境に何が必要なかを見出し、地域活動や政策提案につなげることを目的としたひと・まち社の「子育て力を豊かにするための支援の実態調査」に参加しました。

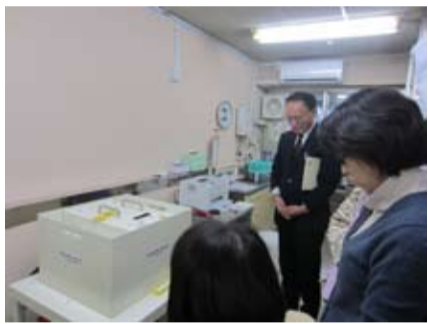
調査の対象地域は子ども条例等を制定している自治体、乳幼児を対象とした政策が進んでいる自治体の区部3・市部2（武蔵野市を含む）。直接、保健師や保育士、NPOを対象に、聞き取り調査を行いました。また、アンケート調査は都内48自治体で保健師や子ども家庭支援センターの職員を対象に行いました。

食育給食財団へのヒアリング

ヒアリング

給食課ヒアリングは毎年子ども・女性部会で行い、13回目を迎えます。生ごみ・残渣の堆肥化については毎回確認し、現在は飼料として資源化をしています。地場野菜の利用率も上がっており24年度は23%を少し超えるようになっていきます。遺伝子組み換え大豆の混入を調べるパルクテストの導入も私たちの提案で実現しました。

武蔵野市の中学校給食は選択制ですが、12月現在、給食を選んでいる生徒は約95%となっています。私たちは、給食をただ食べればよいというのではなく、「食育」の推進も提案して



放射能測定器で食材などを測定

きました。武蔵野市の給食が民間ではなく「給食・食育振興財団」が運営することで、食育が給食に導入され、小学校に栄養士が訪れ、食材や伝統食、旬について説明しています。中学校では、一と三中で家庭科の時間に栄養士が出向いて食育をしていると聞きました。さらに三中では、料理クラブが栄養士と

子どもを権利の主体者とした支援

今回の調査からは、「乳幼児の全戸訪問」に取り組む自治体が増えており、待つ、ことから「訪問」にシフトしていることが分かりました。出産後の子育て家庭の孤立を防ぐためには、産後の早い時期に積極的に訪問することが効果的です。そして

子育て支援の内容も親のエンパワメントにつなげることで、親が活動の主体者になるように支援されています。また、子どもの権利の視点をもちながら支援を実践していることも分かりました。精神医療を必要とする親が増えていることや、子どもが自立するまで長期に見守る必要が生じているなど支援が長期化しているため、年齢で区切ることのない支援が必要なこともわかりました。支援の現場では、専門職同士が支え合う研修や情報共有、ケア者への日常的なサポートが求められています。発達障害などの知識や新しい情報を得ること、苦情処理への対応を高めるための研修が必要です。

また、復職や就労を希望する人への支援では保健センターや子ども家庭支援センターでは3学期の給食献立で発表する予定です。中学校の給食の時間は、これまでの昼食の時間にはめ込んだため、配膳・後片付けに時間がとられ、食事をする時間が短いことが課題です。三中では時程を変更したため、食事時間にゆとりが出たようです。その他にも、廃油をディーゼル燃料の原料として売却していることもわかりました。また、新しく購入された放射能測定器も確認してきました。

私たちは「食べることは「生きること」につながっていると考えます。これからは「武蔵野市の子ども達が食べる給食は子どものからだに心を作るかけがえのないもの」を基本に据えてヒアリングを続けていきます。

武蔵野市に必要な支援とは

地域で子どもを育てるためにひろば事業など親子が集う場が増え、活動も多岐にわたり、大学やNPOなどの市民活動団体による運営も増えています。武蔵野市の聞き取り調査からは子育ての先進的な取り組みの中から新たな地域のつながりや市民活動との連携が芽生え始めていることが分かりました。子育てを終えた地域のお母さんたちの力を活かす場や多世代間交流の

支援とは

場が少ないこと、災害時に子育て世代が孤立しないためのネットワークづくり・子育て支援にかかわる人々のエンパワメントの必要性などが見えてきました。社会全体で子育てする前提にまちづくりの将来像を描き、行政と民間事業者、NPOなどの市民活動が役割分担しながら進めていくべきです。

新春カフェに集う

1994年に設立した武蔵野・生活者ネットワークは、来年で20周年を迎えます。活動を共にする地域の皆さんに支えられ、育てていただきながら3名の「代理人」を市議会に送り出してきました。これからのネットの役割を確認したいという目的で『新

春カフェ」を企画しました。参加者からは設立時の裏話や苦労話、日頃の思いなど、市民運動のお手本になるようなお話がありました。人と人をつなぎながらそれぞれの思いや夢を前向きに進めていく要としての役割を私たちは活動の中でどのようにして実現していくべきか、新年にふさわしい根源的な問いかけを、新春カフェのひと時から提示されたような気がします。



食事をしながら交流しました

体罰を子どもの権利の視点で考える

大阪市の桜宮高校バスケット部主将が、顧問教師の体罰に耐えられずに、自宅で自殺するという悲しい事件がありました。背景には、体育科という場（運動部で成績をあげるために入学した生徒と、試合での実績を前提に指導する教師、成績をあげるのが当然と期待する周囲の環境など）があったように見えます。高校のスポーツ指導は、あくまでも「人間教育」であり、負けること、悔しい思いをすること全体を学ぶ場です。驚いたのは、周囲の教員が体罰を知っているながら「実績のある顧問だったので、口をはさめなかった」こと。自殺した生徒が「主将である自分だけが殴られる」不満を誰にも言えなかったこと。インターハイに何度も出る教師は「実績を出す」ことが至上命題となっていたのでしょう。その強いプレッシャーの中で、「殴られるのはイヤ」という人間として当たり前の言葉を口に出せずに、死を選んでしまうとは・・・。相手が、親でも教師でも、「NO!」と言える。そんな「個人の尊厳」を守る教育がもっと必要です。

この事件に関する報道で「子どもの権利」の視点で書かれた記事が見当たらないことにも強く怒りを覚えます。私たちの国のマスメディアに対し、「子どもの権利」の視点を求めていかなければなりません。

生活者ネットワークのルール

- ・ルール1：議員はローテーション
議員を職業化・特権化せず、世代交代を進め参加の層を広げます。
- ・ルール2：議員報酬は市民の活動資金に
議員も報酬に応じた寄付（カンパ）を行い、市民の政治活動資金に活かします。
- ・ルール3：選挙はすべて手づくりで
みんなでお金（カンパ）と、知恵や労力（ボランティア）を出し合います。
- ・生活者ネットワークはローカルパーティー（地域政党です）
1979年に初の区議会議員を送り出して以来、「政治を生活の道具に」を掲げ、生活の中の課題に取り組んでいます。2012年末現在都議会議員3人、区市議会議員53人が活動。国会議員を出していませんので、政党交付金は受け取っていません。